

建築人 12

2012



広島に、建築見学のイベントや建築のガイドマップづくりなどを通して、街の活性化をめざす、「アーキウォーク広島」という草の根的な市民組織がある。今年の十月下旬、縁あって知遇を得たメンバーからの誘いを受けて、一度は見たかった大高正人の大作、「広島基町高層アパート」の屋上空間を訪れる機会があった。

この高層アパート群は、長らく被爆地広島市中心部に残されていた木造平家の応急住宅や原爆スラムと呼ばれた不良住宅街の解決と中央公園の建設を目的に計画され、広島県と広島市の共同による再開発事業から生まれた。一九六八年に着工し、七期にわたる工事によつて、一九七〇年から七八年にかけて竣工する。文字通り、広島戦後の復興を象徴する建築のひとつである。また、その内容は、総数三千戸に及ぶ住戸からなる高層集合住宅にとどまらず、小学校や保育園、店舗や医院、集会場や共同浴場まで、地域の都市的施設をも内包する街づくりとも呼べるものだった。

大高と担当チーフだった藤本昌也（一九三七年〜）らスタッフは、このビッグプロジェクトを進めるにあたって、何よりも、広島の新たな都市風景を構成する建築の集合のさせ方に重きを置こうとした。そのため、陽あたりや住戸間のプライバシー、居住性の確保だけでなく、遠くに見える山並みや、瀬戸内海へ向かつて北から南へ眺望が開ける空間特性、隣接する広島城址にも配慮して配置計画を練り上げていった。こうして、中央の商業施設や学校などを取り囲むように、住棟を大きく三つの群に分けて配置し、二十階から八階まで、北から南へ順次高さが低くなつていくジグザグ状の屏風のよう

な群造形が生み出されたのである。さらに、住棟の足元をピロティにして光と風が抜ける地域に開かれた公共空間を確保し、各階にも空中路地のような場所を設けるなど、集まつて住む集住体に都市的な公共性を与えようとする。そして、その延長上に設けられたのが、延べ千二百mにも及ぶ長大な屋上空間だった。

今回、はじめてその場に立つてみて、大高が構想したことの意味を実感することができた。周囲の雄大な風景を一望するこの屋上空間は、若き日の大高が憧れたル・コルビュ

記憶の建築 松隈 洋

広島基町高層アパート 1970～78年
都市風景を構成する集住体



ジグザグに展開する南西ブロック屋上の眺め



南西ブロック屋上から見る東ブロックと市場上部の屋上庭園

ンスがいくたびもあった。

戦後間もなく焦土の上に数々の都市計画の設計競技が行われ、図面の手伝いに駆り出されたわれわれは、コルビュジェ風の建築が建ち並ぶ都市計画が今ここに実現するかと思う時期があった。（中略）それらがひとつとして実現するという話しを聞かない間に、戦後の都市計画は別の手で進められていったのである。（中略）建築は都市の末節であり、体系が決まれば末節は自らこれに従うという日本の都市計画の習慣は「明治に始

術を蓄積し、様式を論じ、公共的な性格とは縁の薄い経済や文化の行為を拡大し、それぞれに成果を挙げながら、その総体として到達したものは醜怪な都市や農村だったのである。」（大高正人「都市生活環境と建築家の役割」『都市住宅』一九七三年七月号）

ここから読み取れるのは、建築を都市計画の中にきちんと位置づけることができなかった戦後の日本と、そのことに向き合うことなく都市や農村への提案を怠ってきた建築界への怒りである。そして、同じ文章は次のように締めくくられている。

「明日はまた広島に行く。われわれを意のままになる図面書きと思う市民の数々の注文がある。善意の内容を理解しない反対もあろう。何よりも九ヘクトールに三〇〇〇戸という重荷に私は押しつぶされそうだし、ぎりぎりの予算で、せつかくの筆もちびてしまふ。それを知らぬ市民の注文を明日は聞かなければなるまい。早くも市民があらははじめた庭も見なければなるまい。そして話しにもならぬほどの重荷を黙々と支えている県や市の職員や事務所の仲間をいくらかでもはげましてやらねばなるまい。」

私たちは大高と当時の関係者が全力で立ち向かおうとした現実をどれほど理解し、それを現代へとつなぐ努力をしてきたのだろうか。基町アパートは、集まって住む集住体の建築群によつて都市の風景を構想した人々の後ろ姿にも見えてくる。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。



大阪ホンマもん

テクノロジー Technology

じゃこ田ミュージアム

－京都府亀岡市保津町前河川敷の再生－

松井哲哉

松井哲哉

1967年生まれ

1990年

近畿大学建築学科 卒業

1990-97年

歌一洋建築研究所 所属

1997年

一級建築士事務所ウーズ 設立

2005年-

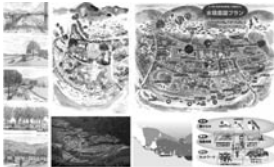
近畿大学建築学科非常勤講師



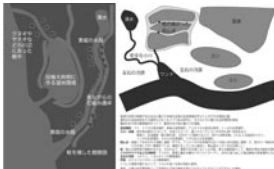
船舞台



竹灯盆



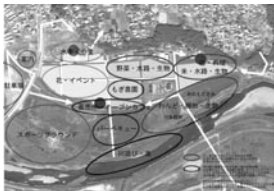
様々な段階、様々な人達のスケッチ



水田生態系研究者のスケッチ



様々な意見を貼り付ける



初期ゾーニング



を受けた水害対策としての河道改修（堤防の付け替え等による河道拡張）や、川沿いの農地再編整備（国営圃場整備）などの計画が発表された。地元では、「身近な環境は自分達で考える」という考えのもと、「保津町まちづくりビジョン推進会議」が立ち上がる。実施した町民アンケートに沿って地域の未来図を描き、その意思を「ふるさと・保津・夢ナビゲーション」という冊子にまとめている。

故里との再会、亀岡・保津

京都府亀岡市保津町、保津川沿いに新たな河川敷が出来る。私は、河川敷の計画に対する地域住民の意見の取りまとめをさせていただいた。

私は、亀岡の高度経済成長期に開発された住宅地で育った。小さい頃の新しい住宅地周辺の環境が、私にとっての亀岡の全てだった。大学から大阪に出て就職し、11年間大阪で暮らし、故郷へ戻って独立した。再び亀岡の自然が、畏怖の感情と共に体に入り込んで来るのを感じた。故郷の自然は幼少のころに感じた自然とはまったく違う輝きを持ち、奥深い歴史と文化を湛えた、母なる保津川の流れへと惹かれていった。

そんな時、「保津川開削 400 周年記念事業」に出会った。そこで、初めて故郷の川について学び、古くから川につながり、生活を営んできた人びとと出会った。市民公募で参加した実行委員会では、イベントを担当することとなった。保津川下りの船の上に足場を組んで「船舞台」を作り、市民が手づくりで保津川開削の歴史を伝える劇を行った。

それをきっかけに、私は、川の開削を行った京都の豪商・角倉了以の位牌のある養源寺で了以の命日に行われるメモリアルイベントにも参加させていただいた。地元の人たちと放置された竹林から竹を切り出し、亀岡の盆地と川の流れを表した「竹灯盆」を迎え・送るための火として灯した。

身近な環境を自分達で考えるまち

保津は、盆地の一番低いところを流れる川が、溪谷に流れ込む入口にある。その地形的な理由で、毎年水害に悩まされ続けた歴史がある。その思い

た。そこでは、河川敷を地元市民だけでなく観光客にも開放するスポーツ・レクリエーション空間として提案。芝生広場・サイクリングロード・小川・キャンプ場・牧場などのイメージが描かれていた。

私が、保津と出会ったのは、そんな時だった。同じ亀岡でも私の育った住宅地とは違いがあり、その奥深さと、自分達のまちを思う強さに惹かれた。また同時に、その力の源にふれてみたい感情が湧いてきていた。

これからのまちの核としての農園

これまでの議論を受け、保津町自治会では、今後まちづくりを実施していくため「保津町まちづくりプラン KI・ZU・NA」を策定した。そこでは、高台の旧村と保津川下りの出発点の川辺との間にある圃場整備後の農地を活用することが提案された。地域の環境やいきものと共生し、町外の方ともお付き合いの出来る川端の農園「保津川すいたん農園」として、これからのまちづくりの大きな柱の一つとして検討していくこととなった。これまでの営みを受け継ぎ、ふるさとの自然・生態系・歴史・文化を守っていきたいという思いが強くあった。自分達の土地である農地から、公地である河川敷・川へと発想や思いはあふれ、広がっていった。

推進会議は、活動に賛同する外部の人たちへオープンな形を取るようになり、私をはじめ、地元の大学の水田生態系の研究者も個人的に関わるようになってきていた。

イメージを具体化していくにあたり、メンバーが個人的な思いを書き出すところから始めた。書き出したものを地図上に張りながら、それぞれの

意見、周辺環境、法的なことなどをイメージしつつ、初期のゾーニングを進めた。そして、「保津川すいたん農園プラン」として地域住民への公開と議論を重ねた。

川辺の水田環境を象徴するアユモドキ

亀岡には、川辺の水田生態系における人と自然の共生の象徴的ないきものとして、天然記念物で絶滅危惧種であるアユモドキという魚がいる。アユモドキは普段は本流の川で生息するが、産卵時水田などが水害や灌漑で浸水し川とつながった時に遡上すると言われている。

堤防の付替えの整備と圃場整備の完成が近づき、町の人たちの悲願であった水害からの安心・安全と、農業の効率化が確保されつつあった。検討を進めるなかで、河川敷と農地の整備前後の環境の違いや、それぞれのエリアでの出来ることの違いなどが見えるようになってきていた。

以前、川辺の農地には、アユモドキと一緒に多くの魚が川から田んぼに遡上し、地元で「じゃこ田」と呼ばれていた田んぼがあった。そのような田んぼのある農園を作りたいとの思いがあった。しかし、水害が起りにくい構造とした堤防と圃場の整備後の農地では、自然な形で「じゃこ田」を再生することの難しさがあった。2つの価値観がぶつかり合っていた。

川の中に田んぼをつくる

河川敷を含む川の中よりも、堤防内の農地で考えることの方が、制約が少ないように思われた。一方で、河川法の改正により、各地で社会実験として様々な河川利用の前向きな取り組みが、行われ始めてもいた。

「川の中に田んぼをつくってみたらどうだろうか？」堤防を付け替えることで河川敷となった場所は、もともとは旧堤防内の農地である。河川敷は、治水上、今後も浸水することを前提に計画されている。畦は構造物として高さが低く、川の流れを大きく阻害することにはならないため、水田に遡上する魚にとってもよい。保津川下りの最初の風景が、昔の田んぼの雰囲気として保全される。分断されがちな堤防の内外や、かつて自分達の庭のように感じて遊んだ川との一体感が増すという特長が得られる。

そのような中、個人的に最も意味があると感じたのが、「水害で農作物を流されるという体験・感情が残る」ということである。ここに暮らす人達の地域を思う気持ちの強さや、いざというときの団結心の源は何なのか？という最初に私の中に起こった問いかけへの答えがあるように思われた。

農業としての営みがある中での、いきものとの共生、自然への畏怖と反骨心、豊饒さと場への愛着、コントロールしきれないものをどのように受け止めるかなどを、文化としてこれからの子供達に継いでいくことはとても意味があることだと感じる。

地域住民の目線でまとめる

推進会議内では、河川敷での水田の提案に一定の理解を得ることが出来た。しかし、公的な土地で行う農業のあり方や意味、流されたときのリスクを、誰がどのように取るのか等、考えなければいけない問題は多々有る。しかし、公的な場所である川だからこそ、多くの人たちで支えあい、喜び合えるような、新しい田んぼのあり方があるようにも思う。

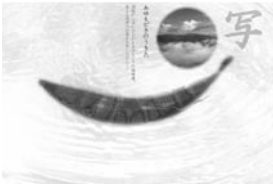
もちろん、河川敷の活用は、田んぼとしての活用以外にもさまざまな意見がある。これからは実施に向けて、町外の関係者と議論を進める必要がある。その際に役立てるため地域側の考えを取りまとめた提案書を作成した。以下の図が、提案書の一部である。現段階ではイメージを絞るすぎて意見が排除されることを避け、関係者が今後詰めていくイメージの方向性を感じられるようにした。

保津川かわまちづくり

現在、堤防の付替え整備により新しく生まれた河川敷の活用を、官と地域が共になって考える場「保津川かわまちづくり」が進んでいる。地元からの声としての提案は、河川管理者にも一定の評価と理解を得ている。「保津川かわまちづくりの対象エリアの中でも、モデル地区の指定を受け、河川敷の有効利用に向けて、協議が続けられている。

これからの時代、官と地域の協働で物事を進める場合の検討の在り方として、地域住民側でも、考えとイメージを持った上で、具体化に向けて協議していくことに、様々な意味があるのではないかと感じた。今後、住民側の立場での検討を行うための在り方が、議論され育っていくことを願っている。

▼以下、「じゃこ田ミュージアム」地域住民提案資料



転写：場の自然を写す



水系：川と水田の水のつながり



生物：多様な生物の居場所



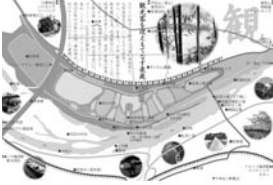
畦道：あぜみち野外ミュージアム



連携：川と農園を食でつなげる



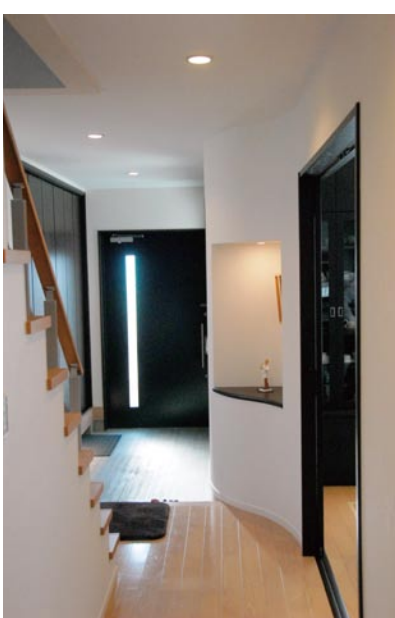
遊ぶ：遊びとスポーツのあいだ



観光：川辺の歴史・文化でてもてなす



仕組：じゃこ田を支える仕組み



敷地は、宇治市の住宅地の中にあります。都市計画の道路拡張に伴い自宅兼歯科医の建物を専用住宅に建替えられました。
建物の外観は、住宅らしさを求めるのではなくシンプルなデザインとしました。濃紺の扉と鉄骨と木目をポイントとしています。
和室は、従来の和室らしい和室ではなく黒の琉球畳とシルバーの壁によりモダンなものになっています。
玄関ホールから階段にかけては、曲線と直線の組み合わせによる空間を作りました。階段の壁に濃紺の壁を入れることで変化を持たせました。
メーターモジュールを用いたことでゆとりある空間を作り上げました。

所在地：京都府宇治市
用途：専用住宅
竣工：2012.10
構造規模：鉄骨造
2階建
敷地面積：140.66㎡
建築面積：103.95㎡
延床面積：207.50㎡
写真：神保 勲



築35年の民家を長男家族が住むために耐震補強と増改築を行った。田の字型プランの主屋は、南面する2間続きの座敷は南面して明るく立派だが、プライバシーがなく、居間、個室がない。又水廻り（厨房、浴室、便所）の位置が悪く、暗くて狭い等従来の民家にありがちな弱点がある。これらの空間を現代の生活スタイルに合わせるため、座敷は仏間の位置を変え床の間のデザインをシンプルに改修した。庭を挟んで敷地奥に寝室と子ども室を増築し、その間をつなぐ食堂・居間は2方向を庭に面し、屋外と一体となる空間としている。親の代からの住まいに、細やかに改修を積み重ねていくことにより、余韻のある住宅となっている。

所在地：大阪府泉北郡
用途：住宅
竣工：2009.9
構造規模：木造 2階建
延床面積：100.88㎡
(新築)
48.75㎡
(改修)
写真：松村芳治

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

平成24年度 建築士定期講習 2/28・3/22 CPD各6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成21年度に建築士定期講習を受講された方、及び平成21年度以前に建築士試験に合格された建築士の方で建築士定期講習を未受講の方は、平成24年度中（平成25年3月まで）に必ず受講してください。

■講習日・会場

日程	2月28日(木)・3月22日(金)
時間	9:30～17:30(受付は9時より)
会場	2月28日(木) 大阪府商工会館 定員200名
	3月22日(金) 大阪国際会議場 定員300名

■申込締切日・受講料

2月28日(木)開催分:1月31日(木)申込書必着
3月22日(金)開催分:2月28日(木)申込書必着
※大阪での申込受付は郵送のみです。
必ず簡易書留郵便にてご送付ください。
※定員に達し次第、受付を終了します。
※受講料 12,900円(消費税含)

■申込先・申込書配布場所

大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局
※申込締切日まで営業時間内に随時配布(無料)。
※定員に達し次第、配布を終了します。
※申込書は下記ホームページからダウンロードも可能です。
http://www.jaiec.or.jp/k_teiki-form_download_h24.htm

平成24年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》 12/7 CPD6単位

日時 12月7日(金) 10:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 100名(申込先着順)
受講料 会員6,000円 一般8,000円
テキスト代金 3,500円

平成24年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習》 12/18・1/31・2/21 CPD5単位

日程 12月18日(火)、1月31日(木)、2月21日(木)
時間 各月共11:00～16:30
会場 いずれも大阪YMCA国際文化センター2階ホール
定員 いずれも200名(先着順かつ希望順の申込受付・定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

建築士法にもとづく「建築技術講習会」 平成24年度 第5回 ～省エネ～ 1/25 CPD3単位〔統括〕

建築士法第22条の4第5項に基づき、平成24年度第5回目の建築技術講習会を実施します。本講習会は年6回のシリーズで、効率よく広範囲の学習をしていただけるよう、各回の内容が異なります。

日時 1月25日(金)13:30～16:15
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区泉町2-1-11
内容 ・バイオマス利用と事例紹介
・「環境」についての届出、報告と低炭素化の促進
定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円
一般5,000円(テキスト代含)

建築士のためのお茶会勉強会 12/19・12/25

建築士の礼儀作法のひとつとして、お茶の作法を学ぶため毎月開催している勉強会です。

日時 12月19日(水)、12月25日(火)
18:30～20:30頃まで
(原則毎月第3水曜日及び第4火曜日)
費用 年会費6,000円+1回2,500円
(年会費はキャンセル時の水屋料などのため。但し途中入会の場合の年会費は年度末までの月数×500円となります。)
先生 藤井宗照(そうき)先生

リカルド レゴレッタ作品パネル展 12/8～12/9

現代的感觉とメキシコの伝統文化を融合する建築家リカルド レゴレッタ(2011年12月没)の作品パネル展を開催いたします。高松宮殿下記念世界文化賞(建築部門)を受賞した彼の迫力のある大パネルを多数展示します。

日程 12月8日(土)～12月9日(日)
時間 10:00～17:00
会場 大阪府建築士会 会議室
参加費 無料

平成25年在阪建築14団体 合同新年交礼会 1/4

日時 1月4日(金) 15:00～16:00
会場 シェラトン都ホテル大阪 浪速の間
大阪市天王寺区上本町6-1-55
会費 3,500円
申込締切日 12月5日(水)
※会費を添えて12月5日(水)までに本会事務局までお申込ください。12月7日(金)以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願いします。

建築士の会 北河内 ～大阪府域における精神医療の中心的病院施設～ 大阪府立精神医療センター見学会 2/9 CPD2単位

建築士の会 北河内では、この度、大阪府立精神医療センター、大阪ハートケアパートナーズ及び安井建築設計事務所、戸田建設のご協力のもと、平成24年度に完成予定の「大阪府立精神医療センター」の見学会を行います。

日時 2月9日(土) 13:00～16:30
集合場所 京阪文野線「宮之阪駅」改札出口前
募集 40名(申込先着順)
参加費 1,000円
※懇親会参加費(別途3,500円程度必要)
行程 13:15～ 百済寺跡見学
14:00～16:30 精神医療センター見学
17:00～19:00 懇親会
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

事務局年末年始休暇のお知らせ

12月29日(土)から1月4日(金)まで休ませていただきます。

本会の催し参加申込方法

FAX・メール・郵送で、催し名、参加者名、会員 No、勤務先、参加証送付先住所、同電話 & FAX 番号（自宅又は勤務先）を明記の上、事務局までお送り下さい。

問合せ・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

Others

その他のお知らせ

大阪府建設工事等競争入札参加資格 及び大阪府物品・委託役務関係競争 入札参加資格審査申請受付について

平成25・26年度の申請の方法、添付書類等について、HPで案内を掲載しています。現在の入札参加資格の有効期限は平成25年3月31日までとなっていますので、平成25年度以降の競争入札に参加する場合は今回の申請を行う必要があります。

■申請受付期間(平成25・26年度)
建設工事競争入札参加資格
平成24年11月16日(金)～
平成24年12月14日(金)
建設工事一般競争入札(特定調達契約)参加資格
平成24年11月16日(金)～
平成25年3月29日(金)
物品・委託役務関係競争入札参加資格
平成24年11月16日(金)～
平成27年3月17日(火)

問合せ 大阪府総務部契約局建設工事課資格審査グループ
Tel.06-6944-6429
<http://www.nyusatsu.pref.osaka.jp/keiyaku/e-nyusatsu/>

建設工事に係る特定建設作業の 届出等の徹底について

法令上、届出が遅延した場合でも、災害等の非常時を除き、特定建設作業の実施は、届出をした日の翌日から起算して7日後以降からとなっており、また、特定建設作業の無届出等には罰則規定も設けられています。特定建設作業の届出手続き等については、以下のHPの「特定建設作業の届出と規制のあらまし」をご覧ください。

問合せ 大阪市環境局環境管理部環境管理課
環境保全対策グループ
Tel.06-6615-7923
<http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000060981.html>

大阪府住宅省エネルギー施工技術者講習会

木造住宅生産を担う大工・工務店を対象に住宅省エネルギー施工技術講習会を実施します。講習会日程 下記日程のうち、1日ご参加ください。

12月:5日(水)、11日(火)、20日(木)
1月:11日(金)、16日(水)、22日(火)、30日(水)
2月:6日(水)

時間 9:15～16:30
会場 大阪木材相互市場4階会議室
大阪市港区福崎1-2-1
費用 1,000円(テキスト・教材費含)
定員 30名(定員なり次第締切)
問合せ 大阪府地域産材活用フォーラム事務局
(一財)大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073

東北の手しごと展

東北の方たちがつくられた「布クラフト」が大阪の地によってきます。

主催 東北の手しごと展実行チーム(日本建築家協会・近畿支部・大阪地域部会有志)

日時 12月6日(木)～12月10日(月)
11:00～18:30

会場 杉 deあじょう亭(布クラフト展示・販売) 天神橋筋2丁目商店街 中央カラー現像所内

連絡先 東北の手しごと展実行チーム
期間中の連絡先 Tel.050-3631-4510

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)

【大阪府建築士会ホームページ】 <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

第19回「建築構造用鋼材とその利用技術」講習会(大阪開催)

日時 12月7日(金) 10:00～15:00
会場 ホテルコムズ大阪6階 華
大阪市北区豊崎3-18-8
定員 180名(定員なり次第締切)
受講料 建築士会会員 2,000円
(テキスト・参考資料代含)
問合せ (一社)日本鉄鋼連盟経営政策本部
Tel.03-3669-4815
<http://www.jisf.or.jp/info/event>

生涯学習文化講座「近代建築探訪」

(1)文化財の駅舎建築、洋館、蔵屋敷などの建築ウオッチング
浜寺公園駅、諏訪ノ森駅舎、江戸期の蔵屋敷、ヴォーリス設計の洋館などの見学。

日程 12月11日(火)
集合場所・時間 南海本線諏訪ノ森駅前(南側の駅舎)
13:30集合

(2)旧飛田遊郭・鯛よし百番など近代建築ウオッチングと食事会
優れた文化財の旧遊郭建築の見学。

日程 12月18日(火)
集合場所・時間 地下鉄御堂筋線動物園前駅東改札
17:00集合

講師 (1、2共)明治建築研究会代表 柴田正己

問合せ (1、2共)澤標(みおつくし)
Tel.06-6944-0869

木造住宅の耐震診断と補強方法 講習会「大阪開催」

(一財)日本建築防災協会では、従前発行していた「木造住宅の耐震診断と補強方法」を改訂委員会(委員長坂本功東京大学名誉教授)において改訂作業を行い、2012年6月に「2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法」として発行しました。同書をテキストに講習会を開催します。

日時 1月11日(金) 9:50～16:45
(16:45から受講修了証交付)
会場 大阪YMCA会館2階大ホール
大阪市西区土佐堀1-5-6
定員 300名
受講料 11,000円(テキスト代別)
テキスト 2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法
(発行(一財)日本建築防災協会)
テキスト代 7,000円
申込締切 開催期日の1週間前まで必着。
(但し、定員に達し次第締切)
申込・問合せ (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451
<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html>



山地康夫
1948年1月
香川県丸亀市生まれ
1962年8月
中学3年で大阪天下茶屋中学校へ転校
1966年3月
大阪教育大学附属高等学校天王寺卒業
1970年3月
大阪工業大学建築学科卒業
1970年4月～2005年10月
株式会社松村組大阪本店勤務
趣味: クレー射撃 ゴルフ
釣り 音楽鑑賞
写真機収集

③においては、事業委員会では「青年」「女性」「シニア」「賛助会員」「国際」と最も多くの分科会が運営され、士会の企画の多くがそれら分科会を通して、当委

「女性」「シニア」「賛助会員」「国際」と最も多くの分科会が運営され、士会の企画の多くがそれら分科会を通して、当委

大阪府建築士会も発足六〇周年を迎え組織としてのあり方も一大転機を求められています。士会会員および一般の方々にさまざまな事業への参加を通して建築士や建築士会を広く社会に認知してもらうことを目的として、今後も当事業委員会ではさまざまな講習会や講演会、フォーラムや見学会などを企画・運営していきます。

2012年度 日本建築学会近畿支部 設計競技

主催 (社)日本建築学会近畿支部
グリーンコンクリート研究センター
課題 「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第3回
サービス付き高齢者集合住宅の設計

本課題は、「コンクリートと木とのコラボレーション」、「地球環境と地域社会の持続可能性」という2つの視角から考えることを主眼としており、2010年度、2011年度に引き続き3度目の実施となります。今年度は現実の敷地と機能を想定し、コンクリートと木のコラボレーションによる新たな建築デザインの具現化に向けた提案を求めます。機能としては、福祉と住宅の合築のあり方を考察するため、サービス施設が併設する高齢者向けの賃貸集合住宅とします。詳しくはHPをご覧ください。

締切期日 1月31日(木)17:00まで必着
提出先 (社)日本建築学会近畿支部
問合せ (社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
<http://kinki.aij.or.jp/>

京都国立近代美術館 山口華楊展

同館では2度目の山口華楊の回顧展となる今

展は、新たに見つかった初期の本画に加え、小下絵、大下絵、素描類を併せて展示します。

会期 開催中～12月16日(日)
開催時間 9:30～17:00
(入館は16:30まで)

休館日 月曜日
観覧料 一般1,300円

会場 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町

問合せ 京都国立近代美術館
Tel.075-761-4111
<http://www.momak.go.jp>

大阪市立東洋陶磁美術館 国宝青磁磁花生と国宝油滴天目茶碗伝世の名品

会期 開催中～12月25日(火)
時間 9:30～17:00
※12/14～12/25は19:00まで
(入館は閉館30分前まで)

休館日 月曜日(12/24は開館)
観覧料 一般600円

会場 大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市北区中之島1-1-26

問合せ 大阪市立東洋陶磁美術館
Tel.06-6223-0055
<http://www.moco.or.jp>

大阪府建築士会活動報告
会員や広く社会に対して役立つ情報の発信

山地康夫(事業委員会委員長)

① 事業委員会の活動状況を紹介致します。
建築士定期講習会、耐震診断・改修講習会、建築技術講習会

② 講演会、フォーラムの企画運営

③ 分科会による各種活動
の3本柱があります。
今年度の活動としては、

① においては、三年に一度の建築士への定期講習会「建築士定期講習会」を受託実施。また「耐震診断・改修講習会」では「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会」を合計で十一回にわたって実施した他、「既存コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会」、「既存鉄骨造耐震診断・改修指針講習会」を実施しました。

② においては、防災の日である九月一日に尾池和夫先生による「地震を知って震災に備える」をテーマとして講演会をおこないました。年度末には「くらしのエネルギーを考えるシンポジウム」を企画しています。

③ においては、事業委員会では「青年」「女性」「シニア」分科会では、「事業委員会全体事業の企画・運営はもとより、会員外や学生会員などを幅広くイベント活動に招き入れ、共に活動を実施して行く中で大阪府建築士会に参加してもらう建築士の仲間の輪を拡げて行く活動をしています。

「シニア」分科会では、企業を勇退された会員にさまざまな企画を提供していく中でサロンのな交流をおこなっています。

「賛助会員」分科会では賛助企業と建築士会員との交流を通して相互の結びつきを強化するとともにさまざまな協賛イベントを実施しています。

「国際」分科会では韓国釜山広域建築士会との二十五年におよぶ定期交流をおこなっています。また世界各地の建築・文化に親しめる企画を提供しています。

広がってゆく、スマートハウス。 そこに、大阪ガスの「ダブル発電」。

家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」。

昼も夜も雨の日も、24時間、365日発電でき、自宅で使う電気の

約80%*をまかなえる「ダブル発電」が、

家を、暮らしを、どんどんスマートにしてゆきます。



ガスで実現するスマートハウス が、スマート!

※大阪ガス調べ

お問い合わせ先：大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部 都市開発チーム 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL：06-6586-3241 FAX：06-6586-3259 ホームページ：http://www.osakagas.co.jp

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十月十四日(水)十六時～十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事四名(委任〇名含) 監事一名
名誉会長、顧問、相談役他六名

(1) 二十四年度収支精算(十一月度) 報告
本月度は、木造耐震講習会の受講者増を主な要因として前月度より約二〇万円好転して約△四六〇万円と予測を修正して報告したが、依然としてマイナス決算の見込みが続いている。

(2) 次期理事候補者の推薦(依頼)

理事を段階的に減数するために、新規理事候補者の定数を二三名として、推薦者数は定数×約二五倍の規程により二〇名を常設委員会より推薦願う。公益法人改革による移行後の二十五年四月以降は、評議員が役員から外れることから年度内に解散し、移行後は理事候補者の選挙人に特化した立場とする。

(3) 耐震部会

耐震部会の設置に伴い、設置要綱案、地域体制案、木耐活動規程案、自主行動基準、参加誓約書について提示され、承認された。なお、誓約書で参加表明を募る前に活動内容等に関する説明会の開催希望があり、部会により準備を行う。

(4) 本会保管の委員会資料整理依頼

本会事務局の移転縮小に伴う保管図書スペースの検討に関連して、事務局管轄外の委員会の書類・資料の整理依頼があり、委員長を通じて担当理事・委員等に周知徹底をお願いした。

(5) その他

*建築士のなりすまし防止対策によるカード型免許証明書への変更を推進する旨を在阪友好団体に周知協力をお願いした。

*二十五年度定時総会は、二十五年五月二十九日(水)に開催する。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(五)

苦情処理に大切なこと

編・構成 橋本頼幸

今月の「建築相談コーナー」は、相談委員会の杉山英俊委員にご協力いただきました。

住宅クレームで常に上位の「音にまつわる」問題について二つの事例を通して、問題解決に導く手法について話題提供いただきました。

二つ目の事例。

消費生活センターからの依頼での相談。住宅

メーカーの新築物件で、トイレの音(使用音、紙巻器のカラカラ言う音、給排水の音が、隣接する客間及び廊下で、はっきり聞こえる。メーカーのパンフレットやホームページには、トイレの遮音をうたっており、図面にもトイレと客間取り合いの壁を「遮音間仕切り壁」と明記してあるにもかかわらず、これだけ音が聞こえるのは、遮音シートが入っていないのではないかとこの相談。

現場で確認したところ、図面通り遮音シートは施工してあったのだが、音は確かに良く聞こえる。周囲の状況から判断すると、床下、天井裏、建具から音は筒抜けの状態で、遮音上はまったく考慮していないのと同じような状況だった。メーカーの言い分は、図面通り施工してあるのだから、それ以上の性能を求めるのなら、建築主の負担になるとのこと。建築主に、次のアドバイスをした。「知人の建築士に相談したが、遮音をうたっている以上、求めるのは性能であり、二部に遮音シートを貼つてあるという事実ではないとアドバイスされた。」その結果、メーカーは無償でトイレ全面の遮音を行った。

二つ目の事例。

工務店からの依頼で、施主とトラブルになっているので、第三者として入ってほしいとの相談。

談。浴室リフォームで、在来タイル貼り浴室を解体しユニットバスを入れたところ、施主から、「以前の浴室に比べて音が家中に響くようになり気になって仕方がない。手抜き工事で気に入らないので、元の浴室に戻してほしい」と言われたとのこと。

現場を確認したところ、確かに多少音は聞こえるのだが、以前の状態がわからないので比較できない。施主に「浴室をユニットバスに取り替えるだけの依頼をされた場合、通常遮音工事までは行わない。」と説明をしたが、「知人の建築士に聞いたら、ユニットバスの場合、遮音工事をするのが当たり前と言われた」と言う。その建築士の事や、言われた内容を詳しく尋ねても答えない。おそらく、施主が誘導的に引き出した答えであるような印象を受けた。施工業者は、早く解決したいので、無償で遮音工事を行うと申し出て、施主はそれを受けた。

どちらの場合も、建築士(件目は杉山氏、二件目は建築主の知人)のアドバイスによつて、施工業者が無償で工事を行う結果となった。ただ、二例目の杉山氏は現場を確認し、その他の資料も十分検討した上でアドバイスだが、二例目に登場する建築士は、おそらく電話等で、施主の言い分だけを聞いて説明したと思われる。

相談を受ける場合、建築士の発言内容が周りに与える影響を、十分念頭に置いておく必要がある。電話相談の場合は特に注意が必要である。実際の状況が分からないまま、相談者の「普通は〜ですよ」などの問いかけに、迂闊に返事することは避けた方がよい。一方で、本当に困っておられる相談者には、少しでも解決の糸口を示してあげたい。そのほぐまで、専門家として現状を冷静に確認・判断した上で、言葉にも十分配慮することを心掛けたい。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野高尚

大阪市内を南北に貫く御堂筋と心斎橋筋に挟まれた形で今も残る百貨店建築が「大丸心斎橋本館」だ。設計はウィリアム・メレル・ヴォーリズで、建物は大正十一年(一九二二年)に心斎橋筋側から建築され、昭和八年(一九三三年)には御堂筋側にも増築された。建物の外観は重厚なネオゴシックを基調としているが、ディテールは幾何学的な模様を配したアール・デコ調の装飾が色濃く反映されており、手の込んだ造りとなっている。ビルが建て替わり風景が変わりつつある御堂筋に、安定したプロポーションと連続する窓廻りの深い抱きが、建物に奥行きを与え、落ち着いた雰囲気と心地よい安心感をもたらしている。

近頃はインターネット網で情報を集めて、商品を確認せずに購入出来る時代となり、人との関わりや本物の商品に触れる機会も少なくなつた。目利きという言葉すら危うい時代だからこそ、この戦前から残る百貨店建築と共に「本物」を実感してほしい。

建築人 12 2012

監修 社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会「建築人」編集部

編集人代表 米井 寛

編集人 荒木公樹 橋本頼幸

中間伸和 牧野高尚

事務局 山本茂樹 母倉政美

印刷 中和印刷紙器株式会社



Dアパートメント(CASA 小治郎) SPACESPACE

敷地は、樹齢700年のクスノキがホームと屋根を突き抜けた駅の西側に位置する。駐輪場や神社、高架下の商店、小さな屋台のような店舗、クスノキや桜などの街路樹、水路が混在し、地域住民が多く行き交うにぎやかな場所である。

大きなスキームとして、1階店舗が面する西側の道路と敷地北側に長く見える駅の高架、南側の太陽という環境に各々対応しつつも、それらをなめらかに繋ぐような建物を作れないかと考えた。

30㎡程度の単身者用集合住宅は、通常1住戸4m×8m程の平面に水廻りや廊下と8～10畳ほどのリビングが詰め込まれ、とても窮屈である。1住戸を2m×16mの平面にすると、片方には「広い」通路のような部屋のような空間を作ることが出来る。16mの奥には寝室や水廻りが配置されるが、奥が見えなくなるような形に折り曲げることでプライバシーを作り出した。

このような住戸を、1フロアに2戸×3層積み上げた2m巾からなる壁のようなボリュームを敷地境界線に沿って配置し、屋外階段の取付きを調整することで、住戸の形と環境の取込による住戸バリエーションを作り出した。この過程で出来た中庭と階段は、隣地に挟まれた従来の屋外階段のあり方と比べて、随分と快適で親密な場所となった。開口部は2m巾のボリュームを貫通するよう1対でとり、中庭の通風と採光を建物越しに確保する計画とした。

撮影：鳥村鋼一 第58回大阪建築コンクール渡辺節賞受賞作品

■プロフィール

香川貴範
1974年 大阪府生まれ
2000年 東京工業大学大学院修士課程修了
2006年 SPACESPACE設立
岸上純子
1979年 大阪府生まれ
2006年 神戸大学大学院修士課程修了
2010年 SPACESPACE

■建物データ

設計：SPACESPACE+オーノJAPAN
施工：パナホーム
所在地：大阪府門真市
竣工：2011年
用途：共同住宅（賃貸）
構造規模：鉄骨造 地上3階
敷地面積：161.72㎡
延床面積：228.33㎡

